

普及活動検討会実施報告書

(大河原) 農業改良普及センター

実施月日： 令和4年 9月 6日

実施場所： 丸森町

1 検討内容

| No | 検討項目 |
|----|---|
| 1 | 現地視察 プロジェクト課題No.1 丸森町中通地区丸森中央集団転作組合ほ場 |
| 2 | 検討会 ① 令和4年度普及活動の概要について ② プロジェクト課題の取組み状況について プロジェクト課題 No. 1 「令和元年度東日本台風被災農地の復興に向けた担い手確保」 プロジェクト課題 No. 2 「中山間地域農業を担う新たな営農体制の構築」 ③ 県からの情報提供 ④ 総合検討 |

2 検討委員の構成

(単位：人)

| 区分 | 人数 | 区分 | 人数 |
|----------|----|-------|----|
| 先進的な農業者 | 2 | 生活者 | 1 |
| 若手・女性農業者 | | 学識経験者 | 1 |
| 市町村 | 1 | マスコミ | |
| 農業関係団体 | 1 | 民間企業 | |

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

| 検討項目 | 評価値 平均値 | 評価結果（コメント、評価表の要約） | 普及センターとしての対応方向 |
|----------|------------|--|--|
| 普及計画について | 4.5 | ・仙南地区が抱える課題を把握し、将来に向けて、担い手育成やスマート農業などの新たな挑戦を組入れて計画しているところが評価できる。 | ・当管内でも担い手の高齢化がすすみ、次世代の担い手の育成が大きな課題となっております。新規就農者、新規参入者及び定年帰農者など新たな人材に着目して、地域農業を支える担い手の確保・育成を支援してまいります。また、スマート農業や機械化体系の導入は、省力化や効率化につながり、少人数で生産性の高い農業経営が可能で、担い手不足の課題解決の一つとして地域に提案していきたいと考えております。 |

| | | | |
|---|-----|---|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援については、今後も継続してほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の被災地域では、復旧に時間を要すると、営農意欲の低下が懸念されるため、市町、農協など関係機関との連携により、農業者に寄り添い、また、スピード感を持って、復旧・復興に向けた支援を継続して行ってまいります。 |
| <p>検討項目 (プロジェクト課題 No. 1) について</p> | 4.5 | <ul style="list-style-type: none"> ・被災直後の絶望的な光景を見ていたため、復旧してきた姿に大きな感動があった。 ・水田から園芸作物への転換や新たな挑戦が進み、担い手不足の課題解消に大いに期待する。 ・高齢化や担い手不足が進む中、スマート農業の活用が鍵を握っていると感じた。 ・先進技術の取組などは、担い手のやる気につながると感じた。一方で、先行投資は大きな額になり、買い替え時の負担増の心配がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・復旧を契機に、これまで取組みがほとんどなかった園芸作物への転換や自動操舵システムを活用した畝成型などのスマート農業の導入について、農業・園芸総合研究所や大手農機メーカーと連携しながら現地で実証を行うなど支援を行っております。収益性の高い品目やスマート農業の導入、定植や管理作業の機械化は、担い手不足の解消につながると考えており、引き続き課題の解消に向けた提案をしながら、支援してまいります。 ・スマート農業の導入や栽培の機械化は、コストが高いため、コストの負担軽減につながる各支援策について情報提供してまいります。また、導入した各技術の定着に向けて、労力低減、単収の増加及び品質の向上を図りながら、更なる収益につながるよう支援してまいります。 |
| <p>検討項目 (プロジェクト課題 No. 2) について</p> | 4.5 | <ul style="list-style-type: none"> ・法人化支援は良い成果である。法人を継続させるための担い手確保に加え、経営管理の指導が非常に重要になってくると感じた。 ・組織運営する上で、年間の目標だけでなく、1週間、3か月の目標の設定が大事である。コミュニケーションにより、共通の作業目標を持つことを推進するとよい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでも法人の経営の安定のため、事業を活用し、中小企業診断士や税理士等の専門家の力を借りながら、経営の指導、助言を行っておりますが、引き続き経営の安定に向けて支援してまいります。 ・構成員が、共同作業を通じて、共通の目標を認識しながら、組織運営に携われるよう、リーダーの育成、コミュニケーションの円滑化を図っていくことで、引き続き組織体制の強化を支援してまいります。 |

| | | |
|-----|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・川崎町との連携もうまくできており、目標が達成されており、大きく評価する。 ・経験豊かな方への指導は、苦労があったと思う。普及センターの担当者が代わってもしっかりと引継ぎがされ、継続的な支援の成果である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで同様、町とはこまめに情報共有しながら、連携し組織支援を行ってまいります。 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業のスマート化、DX化は、新たな担い手を得る機会になると思う。 ・全国で大きな自然災害がある中、仙南地区の取組みは、模範事例がたくさんある。情報発信もお願いしたい。 ・組織に入る若手や雇用（季節労働者等）の為には、事務所等があることが望ましい。 ・仙南の2市7町が、各特色を掛け算することで、より大きい成果をもたらすと思いますので、JAみやぎ仙南を含め連携強化できるよう、普及センターにはリーダーシップを担っていただきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・仙南地区の取組みを広く知っていただくため、ホームページや普及センターの広報誌などにより積極的に情報発信してまいります。 ・組織運営する上で、日々の打合せやコミュニケーションの場として構成員が気軽に利用できるスペースは重要であると考えられます。機会を捉えて、その他組織運営に必要と思われる設備などを含め提案してまいります。 ・これまでも仙南圏域の各分野の担当者会議等を開催し、各市町や農協の意見を取りまとめ、連携しながら、各課題解決に取り組んでおります。また、仙南農業士会、4Hクラブ等、市町の垣根を超えた団体の活動も支援しております。これらの活動を各市町の意見を伺いながら、引き続き圏域内の連携に努めてまいります。 |

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する。